長洲町立長洲小学校　校長便り　№27

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年8月29日(月)

前期後半スタート！　充実のシーズンにしましょう!!

Anyone who stops learning is old, whether at 20 or 80.
Anyone who keeps learning stays young.
The greatest thing in life is to keep your mind young.

雑感「学び続ける心の大切さ」

「二十歳であろうが八十歳であろうと、学ぶことをやめた者は老人である。学び続ける者はいつまでも若い。人生で一番大切なことは、心の若さを保つことだ。」

日常生活を送っていると知らないことが結構多いということに気が付きませんか？　私は、教師という仕事さえまだよく解っておらず、ましてや世の中のことについては、知らないことが多すぎます。でも、少しばかり自分の生活がうまく流れ始めると、天狗になって初心を忘れ、「自分がやっていることは間違いない、正しいことなんだ。」と、周囲の意見を素直に聞く「聞く耳」を持たなくなってしまう時もあります。こんな時、「学び続ける心」は忘れていますね。ヘンリー・フォードに言わせるならばそのような人は「老人」なのでしょう。「今の生活に満足だし、困らないから別に勉強しなくてもいい。」という話をたまに聞きます。子ども達にとって、いや、大人にとっても、この考え方は絶対にダメです。私は、一保護者として自分の子どもには、学び続けることについてよく話しています。今子ども達が持っている知識だけで、将来の自分を支えていくことができるでしょうか。

ヘンリー・フォードのこの言葉は、「学ぶことによって、充実した毎日を送る。」ということを伝えているのではないでしょうか。私の価値観を皆様に押し付ける訳にはいきませんが、学ぶことは楽しく、感動的で、生活に潤いを与え、自分を大切にすることだと思います。特に、自分の職種以外のことを学ぶことはとても刺激的で、自分の仕事にも良い影響を与えます。私は、20代30代の頃は、教育書を多く読んでいました。仕事のスキルを上げていきたかったからです。今でも仕事のスキルアップは続けていますが、最近は他の学びもとても楽しいです。そういえば、社会人となった教え子たちとお酒を飲む機会があり、色々な話を聞くことができました。私は教育現場での経験による学びしかありません。恐ろしく狭い見識しかないと気付かされます。まだまだ学びの途中ですね。皆様はどんな「学び」を実践されているのでしょう？　こんな話を、保護者の皆様ともゆっくりできたらいいなぁ、と考える澤田です。

シリーズ「自分を語る」#27

夏休み明けですので、少々おさらいを。

2度目の教員採用試験も半ば諦めていた澤田青年は、運動公園でテニスをしてストレス発散していました。その頃、自宅には採用試験の合否の通知が…　ここまでしたね。

どうせ今年もダメだと思っていましたから、それを忘れようとラケットを振り回しましたよ。自宅には予想通り、教育委員会からの封書が届いていました。どれ位の厚みがあったのでしょうか、家族しか知りません。一次試験の結果は…？　待ちきれなかった父は封書を最初に確認していました。テニスから帰ってきた私は、震えながら結果を見ました。確かこんな文だったと思います。「平成2年度教職員採用候補者選抜考査一次考査結果のお知らせ」　すなわち1次合否の通知です。当時は一次試験に合格すれば二次試験では殆ど不合格はありませんでした。だからと言いますか、私も二次対策なんて、何をやったかさえ覚えていません。二次試験の場所も忘れてしまいました。（一次試験は県立第二高等学校でした。）この頃から、ようやく目の前の子ども達に全身全霊で向き合うようになりました。採用試験の勉強に使っていた時間は、全て学級の事に費やすようになり、休み時間も職員室には帰らず、常に子ども達と一緒にいたことを思い出します。

当時、とにかくがむしゃらに教科指導や部活動に関する本を読んだことを思い出します。読んだというより、本に書いてあることを真似していたといった方がいいかもしれません。でも、これは今になって考えれば良かったと思います。あの頃何もしなかったら、今も同じように何もしなかったと思います。自分で言うのも変ですが、向上心が身に付いたのはあの頃だったようです。「自分は、同級生より遅れているんだから、貪欲にならないと着いていけない。」なんて考えていて、ちょっと卑屈な感じの20代前半の澤田でした。

二次試験の合格通知が来たのは、10月の終わり頃でしょうか。「平成2年度教職員採用候補者名簿に登載されました。」という通知に、気持ちが少し楽になったことを思い出します。「親に世話にならずに済む」という思いでしょうか、今でも両親には世話になりっぱなしなのですが…。

順調に流れていた平成元年度の3学期、私は体調を崩してしまいます。市教委の学校訪問で初めて本格的な指導案を書いたのですが、この頃は絶対に何か結果を出そうと躍起になっていて、体にも相当な負担を与えていたようでした。少し風邪気味だった私は、朝食抜きで薬を飲んだり、病院で点滴をうちながら仕事をしたりしていました。これが体に悪くないわけがありません。とうとう、ある日の夜中、「強烈な便意？」で目を覚ますことになりました。平成2年2月3日、午前3時頃の事です。これまで経験したことのない感覚です。酷い腹痛？　それにしては…。トイレに行き用を足して、布団に入ろうとした時、また腹痛が襲います。説明できないのですが、普通の便意がら分くらいの間隔で襲ってくると言ったらイメージできますでしょうか？　気温は部屋の中とは言え8度くらいでした。徐々に体が冷え、何度も何度もトイレとの往復をするので、体には震えが来ていました。どうしようもないので、こたつで寝ることにしました。この時は想像もつきませんでしたが、実は震えには別の原因もあったのです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）